

# + Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字北海道看護大学



第七回公開講座

## 二十一世紀の健康づくり

オホーツク地域で生活する人々の生活習慣と健康

平成十八年度大学公開講座（第七回）が、昨年九月六日から十月四日までの毎週水曜日、五回にわたって開催されました。六十一名の市民が受講され、どの講座においても非常に熱心に講師の話に耳を傾け、スライドの資料や図表に真剣な眼差しを向けるなど、健康に対する関心の高さがうかがえました。講座終了後のアンケートでは、開催時期や時間、回数などほとんど「良かった」という回答をいただきました。



■第一講 九月六日  
どのような病気が多いのか？  
生活習慣と病気



教授 伊藤 徹也

■第二講 九月十三日  
生活習慣と血圧  
家庭用血圧計を上手に使おう



講師 山本 美紀

■第三講 九月二十日  
骨・関節を大事にする  
生活を考える



講師 寺島 愛子

■第四講 九月二十七日  
人のからだ  
カルシウムと血圧を調整する  
ホルモンについて



教授 大森 行雄

■第五講 十月四日  
今、子ども達のからだに何が  
起きているのか？



講師 井上 由紀子

受講生の  
感想と要望

「今年度は、これから自分たちに起こりうることなどがテーマだったのでとても良かったと思います」（四十代女性）。「年齢的に関心のある課題ばかりで勉強になりました。健康に老化していきけるための内容が特に興味があります」（五十代女性）。「看護大の公開講座、毎回楽しみにしています。どの講座をとっても甲乙つけがたく、大変勉強になりました。特に生活習慣病は、日々の生活習慣を大事に考えたと思います」（六十代女性）。「最新の情報を身近に学ぶことができたり難しく思います。毎日の健康のことに関する内容なので勉強になりました」（七十代男性）。

今後希望する内容としては、メンタルヘルス、家庭における介護、老人の医学、骨髄バンクや臓器提供・献血の実態と課題、医師と看護師の不足問題と対策などが寄せられました。

受講された市民の皆様、そして貴重なご意見・ご要望をお寄せいただいた皆様ありがとうございました。今後も市民の方々に役立つ講座を開催してまいります。

## 平成十八年度 看護研究演習ポスター発表会

昨年十二月七日、四年生による「看護研究演習」のポスター発表会（研究課題は個人研究が三十八件、グループ研究が三十三件）が開催されました。今年度は、発表会場を本学の三力所の実習室を使っておこない、全学年が参加できるように準備し、また日頃お世話になっている実習施設や研究に協力していただいた施設にも呼びかけました。

緊張感に包まれた各会場は研究の成果に聞き入る学生や卒業生でいっぱいでした。



■勉強不足のまま始まった看護研究演習であったが、先生の指導を得て、研究のプロセスを学ぶことができるとも満足している。今後も看護を行っていく中で、生まれた疑問などを大切にして、研究につなげていきたいと思う。

（基礎看護学 鈴木笑美）

■初めての研究ということで難しく、戸惑うこともありましたが、先生の助言もあり無事終えることが出来ました。今回様々な学びを得ることができ、この学びを将来に活かしていきたいと思えます。

（急性期成人看護学 相馬令奈）

■初めての研究で不安が多く戸惑うばかりでしたが、先生の助

言を受けて何とか乗り越えることが出来ました。大変なこともありましたが、発表を終えた今は達成感が大きく、とても良い経験になったと思います。

■私達の研究は半構成的面接法を用いた面接で、質問の仕方や話しの運びなどが難しく、とても勉強になりました。メンバーと何度も話し合い、研究を完成することができ達成感でいっぱいです。

（慢性期成人看護学 星尚代）

■研究テーマが幼児の睡眠だったので、授業では読まなかった文献に触れ、看護に対する視野が広がりました。研究レポートをまとめる過程で、文章力の大切さ、妥協しない姿勢を学び、最後の発表まで頑張りました。

（老年看護学 丸子亜矢）

■始めはとても不安でしたが、三人で協力したことにより安心して研究を進めていくことができました。一つ一つのことをやり終えるごとに達成感があり、とても楽しく充実した研究にす

（小児看護学 谷口智里）

ることができました。

（母性看護学・助産学 出町真代）

■限られた時間の中で準備を進めていくことは大変でしたが、仲間とともに試行錯誤しながら作りあげることが出来、今は達成感でいっぱいです。今後はさらに学習を深めていきたいと思えます。

■看護研究では、テーマ決定から論文作成までの行程を二人で行い、一つの物事について探求する楽しさを知った。また、発表では多くの人に研究の成果を聞いてもらうことができ良かったと思う。

（地域看護学 笹本恵里）

■私たちは今回リンパ浮腫のパンフレットを作成し、読み手にわかりやすい表現の仕方などの変更点を改めて感じました。このパンフレットが少しでも浮腫でお悩みの方の役に立てば幸いです。

（外科疾病論 進藤宏子）

■初めての研究で、戸惑うことや大変なこともありましたが、先生のご指導や研究室のメンバーの協力のおかげでポスター発表や論文を終えることができました。研究はとても良い経験になりました。

（情報科学 小畑日登美）

■形態機能学グループは、DAP1染色法を用いた口腔内細菌数の日内変動と効果的な殺菌



方法について明らかにしました。この結果をもとに、より効果的な口腔ケアが実践されることを願っています。

（形態機能学 松尾慶子）

■講義で研究方法について学びましたが、実際に行うとわからないことが多く苦労しました。しかし、私は二人で協力して行うことができたため、発表終了後は達成感を分かち合うことができました。

（小児疾病論 秦真澄）

■研究を通して、限られた時間で一つのことを達成する大切さや喜びを学ぶことができました。また、発表時に、大勢の人前で相手にわかりやすく伝える難し

さも学ぶことができました。

（語学 小林久美）

■一年間進めてきた研究演習は、グループの仲間と協力し、先生の指導の下に楽しく深めることができ、完成したポスターでの発表を無事に終わらせることができ、達成感を感じることができました。

（生化学・薬理 牧野美穂）

■苦勞する場面も多く大変ではありましたが、先生方の助言のもとメンバーで協力し合い作業を進めることで、良い功績を残すことができ、大学生活における充実した思い出となりました。

（体育健康論 工藤学美）

## 北海道成育看護研究会開催

昨年九月二日（土）・三日（日）に記念すべき第一回の北海道成育看護研究会が本学会会場に開催されました。保健・医療・福祉・教育の専門職と一般の方々



が参集した有意義な会となりました。

会長講演「成育看護のめざすところ」は、全国に先駆けて成育看護学領域を設置した本学会に相応しい内容でした。一般演題は十題の研究発表が行われ、本学学部生と院生の発表もありました。特別講演「子どもと命の尊さについて考える」は中学生の参加もあり盛会でした。

二日目には「小児のプレパレーションの実践」について話題提供三題の講演とディスカッションが行われ、北海道における看護の情熱で盛り上がったというセッションでした。

最後に来年の開催地である旭川の会員が挨拶し閉会となりました。本学会には多大なご協力を賜りました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

母子看護学講座 上野美代子

「オーストラリア研修レポート」

今年度から語学を中心とした海外研修プログラムが本学で始まりました。第一回目の今回は西本佳世さんと吉村由貴さんが、日赤武蔵野短期大学と日赤秋田短期大学の学生とともに、昨年八月五日から二十四日間、ビクトリア州にあるモナシユ大学で、ホームステイをしながら英語を学ぶことができました。ふだりの体験記をお読みください。



2年生  
西本佳世

「思い出深い、暑い夏」  
今回のオーストラリアでの出会いは、私の十九年の中で一番思い出深いものでした。

オーストラリアの地に足を踏み入れた印象は、大きな国であり様々な民族・文化などが入り乱れていて規模が違うということでした。雄大な自然も感動的でした。



2年生  
吉村由貴

三週間の間には毎日語学学校に行き、ホストファミリーと語らい、学校の友人達と慣れない英語で談笑をし、ともに街へ繰り出し、オーストラリアと日本の看護の違いなど様々なことを体験し、学びました。それらは、私に喜びと感動、そして自信を与えてくれました。

「忘れられない思い出」  
私は、ただ何となく「行ってみよう」というそんな単純な理由で、この研修に参加しました。モナシユ大学では、主に語学

センターで英語を学び、週に一度だけ病院見学や看護学校で現地の学生とともに講義を受けました。土地、気候、習慣、文化そして言語など、新しい環境の中での生活はとても新鮮でわくわくするものでした。

日々を追うことに友達も増え、毎日楽しく過ごすことが出来たのも、支えてくださった先生方、スタッフの皆様など、出会った全ての方のおかげです。特に、同じ赤十字の学生には助けられ、支え合って三週間の研修を無事終了することが出来ました。

このような機会がなければ、出会うことのなかった人との出会いが、何よりも私の宝物です。本大学が参加したのは今年が初めてですが、学生同士の交流の場となるためにも、今後もこの研修を続けていって欲しいと思います。

秋の芸術展

昨年十月二十三日より二十七日までの一週間にわたって学生自治会主催による「秋の芸術展覧会」が開催されました。この展覧会は学生だけではなく、教職員も参加して行われました。出展された作品は写真や絵画、水墨画、書道、刺繍や編み物、ペビードレスなど多岐にわたっており、どれもみな力作で熱意が伝わってくる作品ばかりでした。

また、学生ホールでは写真部員による「サルの毛づくろい」や「トラの昼寝」などの動物写真のほか、「しばざくら」、「ラベンダー畑」など四季折々の花の写真が掲示され、訪れる人びとの目を楽しませていました。

シリーズ  
研究と私



講師 小山満子

研究機関である大学病院に勤務していた私は、看護を深めるために、産科では胎児異常や精神疾患を合併した対象の心理面

や退院後の継続看護に関する研究を中心に取り組みました。成人では骨髄移植の看護に関する研究に取り組みできました。また、役職につきながら学生指導や卒業教育に携わり、教育の重要性を痛感しました。その後、助産の教育に関しては、厚生労働省の看護教育課程で一年間勉強する機会に恵まれました。また、教育学士の取得後、大学院では看護教育学を専攻しました。

現在は、看護学実習に関する研究を継続しています。看護学では実習の位置づけは重要です。実習評価は評価する側にも難しさがあります。実習評価が評価される側に有効に活用されているのか、について研究に取り組んでいます。今後、母性看護に関する新たな研究に取り組む予定です。看護界に生きてきた私には、研究は看護の質を向上させていくために重要なことです。社会に貢献できる研究をめざしていくことが課題です。



図書館がらの  
お知らせ

このたびの図書館情報システムの整備に伴い、昨年十二月から開館時間の拡大と土曜日開館を行っています。多くの方の利用をお待ちしております。

■開館時間の拡大

休業期間の平日は、午前九時から午後八時四十分まで、土曜日は、午前九時から午後五時までとしました。長期休業中は、従前通りです。

■土曜日の開館

土曜日は、無人での対応となりますが、マナーを守り利用してください。

入試情報

〔看護学部〕

社会人入試（定員若干名）、推薦入試（定員四十五名）は昨年十一月十九日に本学会会場として行われました。推薦受験生五十五名及び社会人受験生九名が小論文と面接を受け、推薦入試五十一名、社会人入試四名が合格しました。

一般入試（定員四十五名）は、今年二月三日、本学と札幌及び東京の三ヶ所で行われ、受験科目は英語、小論文そして選択科目（数学・化学・生物）の中から一科目計三科目です。

○入退館時は、警備員室に立ち寄り、「図書館入退館記録簿」に日時、氏名、入退館時刻等を記入してください。

○照明や機器の電源操作は、各自で行ってください。

○冬の暖房は、大学が休業のため、一部の使用となりますので、防寒対策には、各自で留意してください。

○問題等の発生時は、警備員に連絡してください。

○貸出利用は、自動貸出返却装置を使用して手続きを行います。また、返却は、貸出装置で返却の手続きを行ってから、返却ボックスに投函してください。

○詳細は、図書館事務室にお問い合わせください。

また、センター入試（定員十名）は、英語・国語そして選択科目（数学・化学・生物）の中から一科目の計三科目で本学独自の試験は課していません。

合格発表は一般・センター入試とも二月八日です。

〔大学院看護学研究科〕

昨年の九月二十四日に実施しました一期の入学試験（定員六名）は、本学会場にして各専門領域の試験科目、英語そして面接を受け二名が合格しました。

二期の入学試験は、今年の二月二十五日に実施し、二月二十七日に合格発表します。

AEDの設置について

昨年九月に学内二カ所にAED（自動体外式除細動器）が設置されました。

AEDとは、心室細動等の致死性の不整脈の状態を、心臓に

電気ショックを与えることにより、正常に戻す器械です。

学内の設置場所は、必要なきに誰もが活用できるように管理研究棟一階と講義演習棟一階

としました。



奨学金貸与状況

各種奨学金団体等からの奨学金の貸与決定状況は次表のとおりです。

名称	貸与金額	1年生	2年生	3年生	4年生
日本赤十字社北海道支部	年額 60万円	48	47	46	54
日本赤十字社看護同方会	月額 2万円	2	1	3	3
北海道看護職員養成修学資金	月額 3.8万円	1	3	1	
北見市私立大学生奨学資金	年額 60万円限度	15	18	23	9
北海道厚生連奨学金	月額 4万円				4
日本学生支援機構 第1種奨学金	月額 5.3~6.4万円	10	17	11	17
〃 きぼう21プラン	月額 3~10万円	49	34	37	27
日本赤十字社千葉東支部	年額 75万円				1
武蔵野赤十字病院奨学金	年額 60万円		2	1	2
静岡赤十字病院奨学金	月額 6万円	1		2	1
長浜赤十字病院奨学金	月額 5万円			1	
さいたま赤十字病院奨学金	月額 5万円		1	1	
前橋赤十字病院奨学金	月額 12.5万円				1
日本赤十字社医療センター奨学金	年額 60万円		1		

平成18年12月1日現在

教職員人事

〔昇任〕

平成十九年一月一日付け  
教授 休波茂子（助教授  
助教授 近藤明代（講師）

編集後記

年末は子どものいじめ問題とノロウイルスが世間の耳目を集めました。その合間に行われた看護研究演習ポスター発表会を終えて一区切りといったところでしようか。充実した一年であったと思います。

さて第十八号「Viva Kango」をお届けします。公開講座、看護研究演習とオーストラリア研修を中心に構成されています。一年を振り返る縁としていただければ幸いです。

大晦日を前にして雪がたくさん降りました。油断大敵を肝に銘じて冬を無事に乗り切り、希望に燃える春をお迎えください。

日本赤十字北海道看護大学学内誌

+ Viva Kango

第18号

発行日/2007年1月15日  
編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1  
TEL(0157)66-3311 FAX(0157)61-3125  
mail to: kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp  
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp